



自然体験ガイドマップ

日本海に浮かぶ不思議アイランド

飛島

山形県 酒田市

飛島の歩き方

飛島は、鳥海山の西方39kmに位置し、山形県で最も北西に位置します。周囲約10.2km、南北の道路距離が約4kmと、島内を散策したり、サイクリングで回るにはちょうどいい広さの島です。島内には、公共交通機関がなく、徒歩か観光用自転車、または旅館民宿の送迎による移動となります。飛島への唯一の交通手段は、酒田港と飛島勝浦港を往復する定期船「とびしま」で、自転車や食料、島で遊ぶための道具は定期船で運ばなければなりません。

島の住民は約200人で漁業を中心に、宿泊・観光業が営まれています。海洋漂着ゴミの清掃活動を契機に島外からのボランティア活動が活発となり、地域の活性化に取り組む若者の移住が始まっています。

島を回ってみるとたくさんの「不思議」に出会います。島の周囲には、大小の小島が点在し、海岸特有の形をした岩や地層、地名や神社にまつわる多くの伝説が残されています。また、漁村ならではの生活文化や食文化が伝えられています。

島には、ゆったりとした時間が流れ、岩礁に流れる波の音や閑静な森林、素朴な島民とのふれあいが訪れる人々の心を癒してくれます。



■監修：東北公益文科大学
■協力：鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会、
特定非営利法人パートナーシップオフィス、
とびしま未来協議会、長船裕紀、桑川堅治、
佐藤一造、柏谷昭二、本間生也
■発行：酒田市定期航路事業所
〒998-0036 山形県酒田市船場町二丁目5-6
tel.0234-22-3911 fax.0234-22-3912

定期船情報



H31.3発行

飛島散策ガイドマップ

飛島は、周囲約10kmの小さな島です。徒歩、自転車を使って約半日で回れるコースを設定してみました。日帰り、宿泊など訪問の日程に合わせて、じっくり島の雰囲気や景色をお楽しみください。

🔦 灯台 🏠 展望台 🚻 トイレ



散策コースA

大地の営みを体感するジオ探検コース

所要時間 約120分

たていわ 館岩 → 小松浜 → 海岸遊歩道 → さいのかから 賽の河原 → みょうじんじゃ 明神社
おがみじんじゃ 遠賀美神社 → みやたに 宮谷のタブ林 → 南灯台 → ゴトロ浜

島の南端の館岩から西海岸にかけては、およそ900万年前～1300万年前に噴出した溶岩が固まってできた荒々しい景観が広がっています。巨大な一枚岩である館岩の崖上からは、勝浦港と勝浦・中村集落が一望でき、初夏には周囲で繁殖するウミネコのにぎやかな鳴き声が響いています。

海岸遊歩道では波風で洗われた面白いかたちの岩を見ることが出来ます。西海岸の浜辺にはいろんな種類の石ころがたくさん転がっています。賽の河原の丸石、ゴトロ浜の緑の小石はどのようにできたのでしょうか。また、沖に見える鳥帽子群島と御積島にはさまざまな伝説が語り継がれています。島の景観のでき方や物語にふれる散策コースです。

散策コースB

日本の渚百選・荒崎の花と自然を楽しむウォーキングコース

所要時間 約170分

みやたに 宮谷のタブ林 → のうめんどろろ 農免道路と畑作地 → あらさき 荒崎 → にま 洞

「宮谷のタブ林」は、古くから水源を守るために大切にされてきた森で、谷には背の高いタブノキが空を奪い合うように枝を伸ばしています。

島を周遊する農免道路周辺には、飛島名産のこどいもや天保そば、青菜の栽培地があり、色とりどりの花と遠くに見える鳥海山とのコントラストが心を和ませます。

遊歩道を抜けると御積島、鳥帽子群島が目の前に現れ、西海岸に突き出た岩場の荒崎に出ます。海岸沿いには、春から夏にかけて、カノソウ、オオバナノミノナガサ、ハマナスなど海岸特有の花や、スカシユリをはじめとして、トビシマカンゾウ、オニユリの群落が次々と咲き乱れます。磯には、小魚、貝、カン、アメフラスなどの多くの生き物がいて、磯遊びを楽しむことができます。ベンチで海風に吹かれながら島ならではのゆったりとした時間をお楽しみください。

勝浦に「島のミュージアム洞」がオープンし、島の貴重な資料やテーマごとの展示を行っています。

※「洞」は、漁師さんたちが磯の岩盤を掘削して作った船着場のことです。

散策コースC

渚の鐘から見る西海岸と漁村景観コース（サイクリングコース）

所要時間 約150分

なぎさのかね 渚の鐘 → はちまんきてんぼうだい 八幡崎展望台 → げんじもりへいけもり 源氏盛・平家盛
ほみき 法木集落 → 高森神社

「渚の鐘」は、西海岸を一望する高台にあります。平成8年に荒崎が「日本の渚百選」に選ばれた記念に設置されました。遠くに鳥帽子群島と御積島を望み、荒崎から田下海岸まで湾曲する海岸線は絶景です。記念に鐘の音を響かせてみてください。

渚の鐘から遊歩道を進むと八幡崎展望台に出ます。緩やかな浅瀬の岩場の先に美しい夕日が沈む場所として「サンセットビューポイント」となっています。

むかし、屋島、壇ノ浦の戦いに敗れた平家の武者たちが海上に活路を求めて伯耆を船出しましたが、北に流れされ、飛島に漂着しました。そして、追っ手から逃れるため武器を捨て、漁の道に入りました。源氏盛・平家盛は一方に船中で最後を遂げた武者たちを葬り、もう一方に刀剣、甲冑を埋めたと伝えられています。

高森神社の社叢は、島でも随一の大きなタブノキに囲まれた神秘的な場所です。酒田市の天然記念物となっています。

島の北側に軒を連ねるのが法木の集落です。道に面する母屋は妻入りに和小屋の意匠を見せ、梁と束が細かく組まれた優美なつくりで、せがいの造りによって壁より前に突き出しています。勝浦、中村とは違う歴史的な漁村集落の姿を伝えています。

散策コースD

巨木の森での“ツリー&バードウォッチング”ネイチャー体験コース

所要時間 約150分

おものいみじんじゃ 小物忌神社 → きまほく 旧道松の巨木 → 高森神社（タブの巨木）
はなとぎきてんぼうだい 鼻戸崎展望台 → 巨木の森（巨木めぐりの道）

7月14日、中村集落の小物忌神社で「火合わせ神事」が行われます。同時刻に鳥海山頂の大物忌神社、7合目の御浜、遊佐町吹浦の西浜海岸などで一斉に篝火が焚かれ、その年の農作物の作況が占われます。

山グラウンドに向かう坂道には、島では随一と言われるアカマツの巨木（旧道松の巨木）が立ち並びます。

車道から遊歩道に入ると巨木の森が迎え出てくれます。飛島が北限とされるタブノキとアカマツの巨木が遊歩道を覆いつくし、天をめざし大きさを競い合っているようです。照葉樹の森の神秘的な雰囲気は、自然の雄大さと思議感を感度できる空間です。巨木の森では春から夏の間には「ウツ、ウーッ」と牛のような低い声でカラスバトが鳴いています。時には大きな羽音を立てて飛び姿が見られます。また、鼻戸崎から見える寺島ではハヤブサが枯れ木に止まり、春はウミネコが子育てをしている姿が見られます。

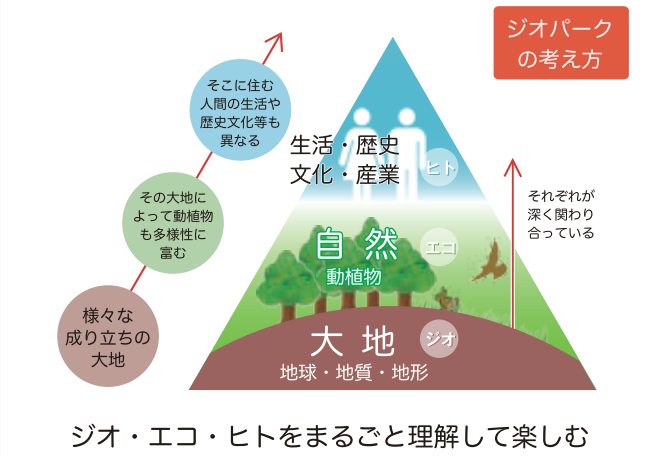
鼻戸崎展望台では、日本海の先に鳥海山、足元には寺島はじめ大小の島々とエメラルドグリーンの海が広がり、抜群の眺望ポイントとなっています。早朝、鳥海山の稜線から昇る朝焼けは、飛島でしか見ることができない幻想的な景観です。

Touch!ふれる・楽しむ・好きになる

鳥海山・飛島ジオパーク

飛島は日本海を南北に伸びる海底山脈のてっぺんにあたります。今から1000万年以上の大昔に海底の火山から吹き出した噴出物が海底に積み重なり、後にそれが盛りあがりながら波や風雨に削られてできた島です。飛島のいたるところで、大地と海の営みによってできた地形や風景をみることができます。

南と北の動植物が同居する個性的な生態系、海を生業とする人々によって培われた漁村の生活や文化もジオパークの見どころです。「大地・自然・文化」の多様性を意識しながら飛島を散策してみてもいいでしょう。きっと新しい発見に出会えるはずです。



GEO TOPICS

霊の拠り所／賽の河原



賽の河原はこぶしほどの大きさの丸石が大量に打ち上がった浜です。島民はめったに近寄らない場所、ふるくから霊の寄りつく処、あの世だと信じられてきました。

この丸石は安山岩という岩ですが、付近の岩とは種類が異なるものです。沖に見える鳥帽子群島には「グズ浜」という丸石が集まった浜があります。この浜の石は賽の河原と同じ種類の岩ですので、賽の河原の丸石は鳥帽子群島に由来する石ではないかと思われます。鳥帽子群島の岩が長い時間をかけて侵食され、波浪、海底の地形、地面の隆起、海水面上昇下降など、いくつかの理由によって賽の河原にたどり着いたものではないかと考えられます。

GEO TOPICS

島の水源とタブノキの森



勝浦の遠賀神社奥の坂道をのぼると、うっそうとしたタブノキの森が現れます。タブノキは谷の両斜面に根を下ろし、空を奪い合うように枝を伸ばしています。

正面に見えるダムは宮谷沢の小さな流れによって満たされています。この沢の水を支えているのが谷を蔽うタブノキの森です。タブノキは西日本を代表する常緑広葉樹で、東北の日本海側では飛島と三崎周辺の群落で北限といわれています。

宮谷沢の水は、かつて飛島に寄港した北前船の船乗りたちも利用しました。宮谷沢の台地上には縄文時代の遺跡がありますが、おそらく当時島に暮らしていた縄文人たちもこの沢の水を頼りに暮らしていたのでしょう。

GEO TOPICS

海の聖地／御積島



標高77m御積島は流紋岩の島で、島の洞窟の内部には鱗状の岩肌が広がっています。ここは龍神のすみ場所と信じられていて、島民や北前船の船乗りたちの篤い信仰を集めてきました。

御積島にはウミネコをはじめとした多くの海鳥が繁殖することで知られています。実は、この鱗状の岩壁は崖上で繁殖する海鳥と関係があると考えられています。

火山活動と海蝕によってできた島と洞窟に、海鳥が棲息することで形成された独特の造形。海の民はその造形に神秘の眼差しを向けたのでした。御積島は、「ジオ」と「自然」と「文化」が交錯する、物語性あふれる見どころとなっています。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
食	冬	岩のり・カスベ・アワビ・ナマコ・ヤリイカ・タコ・タラ		春	ワカメ・アラメ・メカブ・カメノテ・クメン・ホクシ・メバル・スカドリ・島竹		夏	トビウオ・ササエ・いさす・イカ・もずく・えご・グッチョ・こども・トビシマカンゾウ		秋	ヤリイカ・アワビ・おぼ・タコ・塩辛・ソナ	
釣り		タラ	ヤリイカ	カレイ		スルメイカ	タナゴ			アオリイカ		
野鳥					ムギマキ キビタキ オオルリ	コホオアカ マシロビタキ					ジョウビタキ コホオアカ シラガホオジロ	メバル
植物			オオミズミソウ・エゾエンゴサク・キクザキイチゲ		オオバナノミナグサ カノコソウ	ハナマス・ハマエンドウ・ハマビルガオ カワナデシコ	トビシマカンゾウ スサシユリ	オニユリ	シラヤマギク・ツリガネニンジン・シロモギ			
生活		タラ・カニ漁・イワナ採り		ワカメ・アラメ採り	クダ・夜干し	火合わせ神事	トビウオ漁	イカ漁	メバル・マグロ漁			タコ・アワビ漁

釣り

御積島 鳥帽子群島

二俣島

【島渡し・船釣り】

御積島周辺と鳥帽子群島、二俣島などの岩場や船釣りでは、60cmを超える大型のマダイ、クロダイ、コブダイ、イシダイ、メジナなどがあがります。

【島内】

防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

【海づり公園】

釣り桟橋からは、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。

POINT

磯渡しや船釣りは、宿泊する旅館・民宿で手配してくれます。

バードウォッチング

御積島 鳥帽子群島

【島内】

防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

【海づり公園】

釣り桟橋からは、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。

POINT

珍鳥の観察は、野鳥の発見情報の入手が一番の早道です。初心者には観察会への参加や専門家がガイドの依頼がいいでしょう。畑、小中学校の敷地には無断で入らないようにしましょう。

絶景・朝日・夕日

御積島 鳥帽子群島

【島内】

防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

【海づり公園】

釣り桟橋からは、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。

POINT

朝日は鳥海山の方向から昇り、夕日は御積島・鳥帽子群島の方向に沈みます。夕日が沈むと周囲が真っ暗になるので注意が必要です。また、旅館・民宿の食事の時間を十分確認してから出かけましょう。

磯遊び

御積島 鳥帽子群島

【小松浜】

飛島唯一の海水浴場で周囲が岩場で囲まれた地形のため、波の出入りが少なく安心して遊べます。西側には桟橋があり、シュノーケリングでは磯辺の生き物や小魚が群れる様子が観察できます。夜になると海中で夜光虫がキラキラと光る光景が楽しめます。

【荒崎、ゴトロ浜、オボゲの浜】

遊歩道はありませんが、海沿いを歩きながら貝殻拾いや磯歩きが楽しめます。

POINT

海藻やサザエなど魚介の採取行為は禁止されています。磯遊びは、危険が隣り合わせのため、常に緊急避難を念頭に入れて行動しましょう。

花・木

御積島 鳥帽子群島

【島内】

防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

【海づり公園】

釣り桟橋からは、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。

POINT

島の駅とびしま、鳥海山・飛島ジオパークガイドの会、酒田観光ガイド協会会で案内してくれます。

ダイビング

御積島 鳥帽子群島

【島内】

防波堤や浅い岩場、港内では良型のアジ、アイナメ、ウミタナゴ、ヒラメなどが釣れます。

【海づり公園】

釣り桟橋からは、初心者でも安心して釣りを楽しむことができます。

POINT

ダイビングをするには、事前に資材の準備、運搬、船の手配が必要です。県内のダイビングショップにお問い合わせください。御積島周辺は、サザエやアワビの漁場となっているため配慮が必要です。